

京まち工房



SPRING
情報交流誌

no.

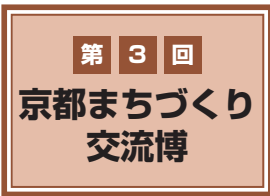
34

(財)京都市景観・まちづくりセンター ニュースレター

パートナーシップで進めるまちづくり

第3回京都まちづくり交流博を開催しました！ ～地域コミュニティの新しいかたち～

伝統と新しさを兼ね備えた京都で受け継がれてきた地域コミュニティ！
今、まさに変わりつつある「地域コミュニティ」からの発信！



平成13年度から、京都で活動するまちづくり団体による情報発信や相互交流を目指し開催してきた「京都まちづくり交流博」。第1回目(平成14年2月開催)は67団体、第2回目(平成16年2～3月開催)は79団体が、それぞれの活動をパネル展示により発信し、様々な交流プログラムにより、お互いに情報交換や討論を行いました。

3回目となる今回は内容を絞り込み「地域コミュニティの新しいかたち」というテーマで近年の社会やコミュニティの変化を踏まえ、主に京都のまちなかにおけるまちづくり活動の中から、今後のコミュニティのあり方に示唆を与えるよう

な取組を取り上げました。それぞれ既存のコミュニティが現在の課題に対応するための「新しいかたち」が見て取れます。ぜひ皆さまの取組にも生かしてください。

開催期間中には、京都学生フォーラムや景観・まちづくりシンポジウム等の企画も併催され、来場者の方々と意見交換が行われました。

(財)京都市景観・まちづくりセンターでは今後も「京都まちづくり交流博」により、京都のまちづくり活動を応援していきたいと考えています。

「第3回京都まちづくり交流博」を開催しました!

企画

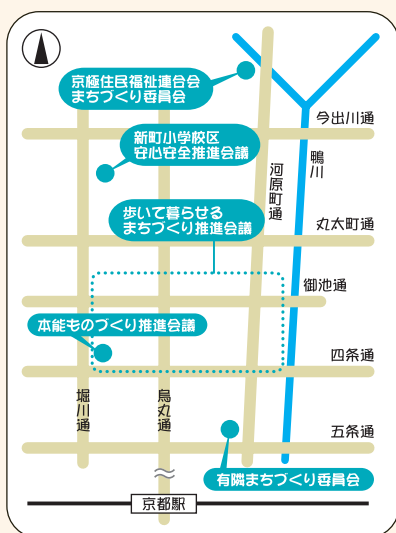
テーマ 「地域コミュニティの新しいかたち」

展示

伝統と新しさを兼ね備えた京都で受け継がれてきた地域のコミュニティ。その中にも近年の社会情勢の変化に対応して新しいかたちが生まれてきています。今、まさに変わりつつある「地域コミュニティ」からの発信!



京都のまちなかでは、和装産業のものづくりや小売・卸の商業などが住まいとの密接な関わり合いを持ちながら、職と住が共存する地域コミュニティが生まれ、継承されてきました。しかし、近年の和装産業の低迷や、商品流通における構造の変化、少子高齢化に伴う通学区の再編、染工場跡地等でのマ



ンション建設など、まちなかの地域コミュニティを取り巻く状況は大きく変化してきています。

具体的には、マンションの立地に伴う新しい住民とコミュニケーションをどうやって結べるのかということ、小学校の統廃合により従来のようにPTA活動を通じて子育て世代の親が地域との関わりへの入り口となりにくくなっていること、地域活力を生み出すために地域以外の外部の支援者をどう確保していくか、地場のものづくり産業が地域を基盤にどう展開できるかなどの課題が挙げられます。

このような状況の中、まちなかでは特に、従来の自治組織に加えて、平成10年ごろから地域のまちづくりについて考えるまちづくり委員会などの組織がいくつか立ち上がり始め、現在の地域社会の状況や課題に対応した新しいコミュニティの姿や活動が模索され始めています。

今回の交流博では、「今後の地域コミュニティ」のあり方に示唆を与えるような、特徴的な活動を展開しているいくつかの地域の取組の紹介を通じて、「地域コミュニティの新しいかたち」に関する情報発信を企画展示等により行いました。

まちなかにおける マンション住民との交流の促進

【有隣まちづくり委員会 (下京区)】

下京区の有隣学区では、元有隣小学校の跡地検討や地域に増えてきたマンションへの対応に取り組む中で、ま

ちづくり活動の機運が高まり、平成14年に有隣まちづくり委員会が立ち上がりました。これまでマンションフォーラム、マンション実態調査、マンション対応マニュアル「マンション建設と町内会の対応」の作成、マンション住民のための地蔵盆の企画、地域の子育て世代の交流の機会としての子育てサロンの開催など、これまで地域に住み続けてこられた方々と新たに入ってこられたマンションの方々との交流を目指した取組を進められています。

新旧住民の円滑な交流(コミュニケーション)を生み出していくために、マンション住民との交流を目指した様々な取組を継続して行っている事例です。

地域間をゆるやかに結ぶ、 まちづくりネットワーク

【歩いて暮らせるまちづくり推進会議 (中京区)】

歩いて暮らせるまちづくり推進会議は平成12年に国のモデル事業「歩いて暮らせる街づくり」を推進する地域母体として、京都市の呼びかけに応じて住民・事業者などが集まり、これまで毎年「まちなかを歩く日」を開催してきました。取組を進める中で、まちなか地区の9つの元学区(城巽・本能・龍池・明倫・初音・日彰・柳池・生祥・立誠)と複数のまちづくり組織、商店街、京都文化博物館などの公共機関が参加し、これまでになく情報共有と意見交流の場を創り出しています。毎年秋に開催している「まちなかを歩く日」では、京都のまちなかの魅力や課題を、地域にお住まいの方や訪れる方に伝えるために、参加しているそれぞれの主体が様々な工夫を凝らしてイベントや実験を展開しています。

活動を続ける中で、地域コミュニティの抱える現在の問題が、各学区で共通するものであり、課題によっては複数の学区が協力すべきものがあることが分かってきました。特に、地域の若い世代や子どもたちの参加はまちづくりを進める上で欠かせませんが、平成7年に小学校が統合し各元学区の子どもたちが高倉小学校に通うようになり、高倉小学校の通学エリア内を対象に取組を進めることが重要となっています。また、まちなかの魅力を多くの人に伝えることで「歩いて暮らせる」魅力あるまちの実現を目指そうと、マスツーリズムによらない新たな手づくり観光の可能性を模索しています。ここでも地域の人材をつなぐネットワークが力を発揮します。

複数の元学区にまたがり緩やかに連携することにより、共通の課題にも取り組むことができ、解決に向けての様々なアイデアや取組が実行できるという、これからのまちづくり活動のあり方だといえるでしょう。

地域のつながりを基盤にした 地場産業の新しい挑戦

【本能ものづくり推進会議（中京区）】

本能学区は、和装産業に関わる職人さんが多く居住し、都心部で今なお着物の産地として息づく地域です。平成11年に本能まちづくり委員会が立ち上がり、「住みたいまち・育てたいまち・働きたいまち・本能」をキャッチフレーズに、活発な活動を展開しています。和装産業が低迷しているといっても、京染めに関わる仕事は地域に深く根付いており、この地域の力（職のつながり、人のつながり）を産業振興等のまちづくりに生かしたいという思いから組織化されたのが「本もの推進会議（本能ものづくり推進会議）」です。訪れる人々に、伝統産業の仕事場、職住一体のまちの雰囲気、本能におけるものづくりのプロセスなどを知ってもらうため、「公開工房」、「マイ・キモノ・プロデュース」などの取組を続けています。

地場産業の活性化プロジェクトを進行させ、産業振興を地域コミュニティの活力にも還元していくという良好な循環の構築を展望している事例です。伝統産業が息づく職住が共存するまちなかでの新たな地域コミュニティのあり方です。

幅広い人材の参加による 地域の活性化

【京極住民福祉連合会まちづくり委員会（上京区）】

京極学区は御所に近く、歴史的に重要なお寺が多いという特色と同時に、若狭街道の起点でもあり商店街が活発であるという特色のある地域です。

平成11年から京極住民福祉連合会の中にまちづくり委員会が結成され、地域活動を紹介する新聞「きょうごく」を発行してきました。この地区のまちづくり活動の特筆すべき点は、PTAや少年補導委員会など子どもを巻き込んだ活動が活発であることと、専門家、学識経験者、学生、ミニFMなど地域外の人材がそれぞれの特技を生かして活動に協力している点です。地域でまちづくり活動を担う団体が、外部の人材と連携しながら進める寛容さを持っているようです。

幅広い人材の参加による地域の活性化を目指す、このような地域コミュニティのあり方は、これからのまちづくり活動の参考となるでしょう。

新校区のセーフティ・ネット …小川・中立・滋野による協働の試み

【新町小学校区安心安全推進会議（上京区）】

新町小学校は中立小学校、小川小学校、滋野学区の通学エリアを統合する形で平成9年に開校しました。それぞれの元学区では明治以来の伝統ある自治組織により活動を行ってきましたが、小学校の統合をきっかけにして、児

童の健全育成や小学校教育の後援について自然に歩調を合わせるようになってきました。さらに近年、地域の安心・安全を確保する取組の必要性が高まり、これに地域として取り組むための新しい組織、新町小学校区安心安全推進会議が設立されました。

他の地域と同様、高齢化・少子化の進行する中、既存の地域組織を支える人員の減少・高齢化が問題となっていますが、3つの元学区で活動していた人材が、それぞれ分野ごとに連携して地域課題に取り組むという、新しい地域活動のかたちを模索しています。

京都学生まちづくりフォーラム

京都市内の各地を対象に提案や活動している内容について、28の学生グループがパネル等の展示を行い、また2月19日に活動内容の発表及び参加団体と地域の方々の交流を図る学生まちづくり交流会を開催しました。



景観・まちづくりシンポジウム

京都のまちなかに焦点を当て、新しいまちづくりの動きが活発な本能学区・城巽学区の話題を中心に、今後の地域コミュニティのあり方について参加者とともに幅広く意見交換を行いました。



開催期間 平成18年2月17日(金)～3月5日(日)
(2月21日(火)を除く)

会場 京都市景観・まちづくりセンター
まちづくり交流サロン

主催 (財)京都市景観・まちづくりセンター

後援 京都市

平成17年度景観・まちづくり大学

学生まちづくりセミナーの開催！

「学生まちづくりセミナー」はセンター事業「景観・まちづくり大学」の一つとして、まちづくりに興味のある学生(大学生・大学院生等)を対象に開催しています。今年度は下京区の有隣学区を対象地とし、平成17年11月～18年2月までの全5回のワークショップに23名の学生(有隣学区在住3名を含む)が参加しました。学生は3つのグループに別れてコーディネーターのアドバイスを受けながら、有隣まちづくり委員会(2ページでも紹介)の方々と交流を深め、最後には地域の方々の前でそれぞれのグループから提案を発表しました。

第1回 基礎情報修得



今回のセミナーは、大学はもとより学年も専門もバラバラな学生さんが集まりました。まず、京都市の都市づくり推進課の方から、都心部における京都市としての取組状況について説明をしていただきました。また、今回のセミナーのコーディネーターである山本一馬さん(街角企画株式会社 代表取締役)から「地域まちづくりとは、ワークショップとは」という内容で、今回のセミナーの進め方に即して講義が行われました。さらに、大田垣義夫さん(有隣まちづくり委員会 副委員長)からは、マンション住民との交流や小学校の跡地問題など、これまでの委員会の取組について紹介がありました。その後、グループごとに自己紹介を行った後、次回に行うまちあるきの視点についての検討、発表を行いました。

第2回 まちあるき

元有隣小学校に集合し、学区内のまちあるきを行いました。学区の方々のご協力により、扇子や弓、提灯、仏具関係など普段は見ることができない伝統工芸の作業場や京町家の内部なども見学することができました。また、学区で課題となっているマンションや小学校の敷地についても写真を撮りながら歩きました。グループワークでは、学区の地図にプリントアウトした写真を貼り付け、マーカーで文言を入れながらまちあるきの結果をまとめ、学区の魅力と課題を抽出しました。各グループの発表では、公園や通りな



どについても様々な評価があり、まちづくり委員会の方々から、「これまでになかった視点として有意義だった」というご意見をいただきました。

第3回 課題分析・テーマ設定

前半は、まちあるきを受けての地域の魅力と課題を改めて確認し、類似意見をまとめながらグループとしてそれぞれ5～10項目程度に整理しました。後半は、これらの結果を見ながら、有隣学区の来るべき10年後、20年後の将来像を設定し、その将来像に対して採るべき戦略を考える(シナリオアプローチ)ことを通じて、グループとしての提案テーマとそのコンセプトの設定を行いました。将来像では今後マンション住民がさらに増加するという想定や、提案テーマでは地域の資源を生かしながら、住民の交流を深めていくことなどの発表がなされました。また、次回まで提案に向けて個人で考えてくる宿題も設定しました。



●新年会と自主作業

年明けには有隣まちづくり委員会主催の新年会が開かれました。学生にとっては、提案に向けて地域の方々から情報を収集する貴重な場となりました。また、各回のワークショップでは賄いきれない作業については、各グループのメンバーが自主的に集まって作業を行いました。このころになるとグループのメンバーも打ち解け、本音を交えた活発な議論が展開されました。

第4回 提案モデルづくり



提案に向けて前回の宿題を各自から発表した後、提案の具体的な内容の検討作業を行いました。山本さんからは、これまでの経過を踏まえた「有隣らしい提案であること」、完成型の提案だけではなく、そこへ至る「プロセスも提案すること」、実現に向けて「地域が取り組むべき宿題を提言すること」を盛り込むようにアドバイスがありました。各グループの作業では、「提案の全体構成を考える」、「文章を書く」、「絵や図を描く」など各自の特技を生かして模造紙にまとめる作業を行いました。

第5回 成果発表

最終回は、元有隣小学校での成果発表会となりました。地域側はまちづくり委員会メンバーだけではなく、地域内のマンションにお住まいの方なども来られました。

Aグループは「You live in ゆーりん」をテーマに、地域の方々や学生の交流が進む仕掛けを提案しました。ワ

ンルームマンションの多い有隣学区では、大学生が引越してきたばかりで不安な入学のシーズンに、「ゆーりん入学区式」を開催し、地域の情報や生活のルールなどを情報提供し、地域への帰属意識を高めてもらうという取組について発表しました。

Bグループは「有隣の宝を中心に交流が広がるまち」をテーマに、地域の方々の交流が広がる空間のあり方や仕組みなどを提案しました。「小学校跡地」は地域コミュニティの中心となる広がりのあるオープンスペースとし、「万寿寺通」は子どもが安全に遊べる空間、「マンションのエントランス空間」では、新旧の住民の交流を促す植栽コンテストを行う等の取組について発表しました。

Cグループは「内にもつながって楽しいまち」をテーマに、「知る」、「集う」、「つながる」という3つの要素が循環し新たな楽しみを生み出すような提案をしました。「WEBによるコミュニティづくり」、「暖簾と石畳による街路のデザイン」、「学校跡地をコミュニティエリアとして利用」、「その他数々の生活支援や交流イベント」などについて発表しました。



各グループの発表の後、地域の方々からの質疑応答と意見交換が行われました。地域の方からは、「学生さんの考えに感激している。提案を参考にしたい。若い世代との考えの違いにも気付くことができた」、「今回のセミナーでの出会いを大切に、これからも、グループを越えてまちづくり事業に協力して欲しい」などといったご意見をいただきました。

今回のセミナーで学生の皆さんが分析・提案した内容は、今後の有隣学区の取組に生かされていく予定です。また、今回のセミナーだけではなく、今後も学生が有隣学区のまちづくりに継続的に関わられるよう、センターもサポートしていきたいと思ひます。

■ 今回のセミナーに参加された方々の感想

■ 学生のみなさん (一部)

- ・有隣の方々に様々な協力をいただき非常に充実していたと思います。また、色々な大学・学年の学生と出会い、ともに作業をするのは新鮮でとても楽しかったです。(田中恒さん：立命館大学)
- ・色々な意見が出てまとめるのが大変でしたが、様々な考えを知ることができて良かったです。私は有隣学区に住んでいますが、まちあるきの中で有隣の隠れた姿に気付くことができました。(勝木織絵さん：京都女子大学)
- ・自分の好きな「古いまち」の魅力を他の人に伝えるためにできることは何なのか、考えることができて良かったです。京都のこんな由緒ある地区の方々に関わらせていただいたことは貴重なことだったと思います。(川波朋子さん：京都市立芸術大学)

■ 大田垣義夫さん (有隣まちづくり委員会 副委員長)

「入学区式」や「万寿通を遊び・集える空間に」、「小学校跡地とコミュニティ広場をつなげる」などの提案は今後のヒントになると思います。また、従来まちづくり委員会では「マンションの窓口」探しに苦心してきましたが、インターネットを使って個々の居住者に働きかける発想などは新鮮でした。今後も実現に向けて引き続き学生さんの協力を期待しています。

■ 山本一馬さん

(コーディネーター：街角企画株式会社 代表取締役)

このセミナーでは、学生側、地域側、両者の関係づくりの3つのねらいに予想以上の結果が得られました。学生の努力と地域側の熱意のたまものです。何より、学生に地域で暮らす生活者としての気付きが育まれたことが今後の地域づくりへの最大の成果でした。しかし、ダイナミックすぎた展開はコーディネーター泣かせでしたね。(笑)

乾ゼミまるごとシンポジウム

学生達がみた・聞いた・感じた「地域・まちづくり」
—学生が地域から学んだこと—



平成18年2月4日(土)、京都市景観・まちづくりセンターで「乾ゼミまるごとシンポジウム」が開催されました。センターの評議員でもある立命館大学

産業社会学部の乾亨教授の研究室は「地域参加型ゼミ」として、学生さんが具体的な地域のまちづくり活動に関わりながら学ぶというスタイルをとっています。現在、南区の吉祥院学区、上京区の春日学区と京極学区、右京区の梅津学区、神戸市長田区の真野地区の5つのグループが、地元でまちづくり活動を推進されている方々とともに活動しています。

今回のシンポジウムでは、ゼミの3回生がこれまで各地域で活動してきた内容とそれぞれのまちづくり活動について分析、考察した結果が報告されました。報告は地域の方々をお呼びして、地域の方々に対して発表するという形式で、芝居や歌なども交えた学生さんの発表をみなさん真剣に、楽しく聞いておられました。後半では、「地域に学生が関わることの意味」を題材に地域の方々にパネリストとして意見交換が行われました。地域の方々からは、「学生さんの存在は地域活動にとって起爆剤となり得るのでありがたい」、「学生さんも10年後には『地域の人』になるので今の経験が生かされるのではないかなど」といった感想が語られたり、「発表時間をきちんと守るような心配りがまちづくりでも大事」といった親心に満ちたお叱りの言葉があり、「学生と地域とのより良い関係」を感じ、考えることができたシンポジウムでした。



京町家の保全・再生の事例

～暮らしの歴史の中で 生きる京町家～

「綾綺殿 (りょうきでん)」(上京区)



店内の様子

西陣織の中心として有名な西陣地域は、現在も町家が多く残り、情緒ある風景が息づいています。この地域の中には、かつて平安時代には天皇の居所であった内裏がおか

れていました。今回ご紹介する「綾綺殿 (りょうきでん)」は、かつて内裏にあった建物の一つ、「綾綺殿」が建っていた場所にあり、それにちなんで名づけられました。「綾綺殿」は、店長の浅原さん自ら足を運んで厳選された、有機栽培マーマレードなどのイタリアの食材が並んでいます。また喫茶スペースでは、木と土の落ち着いた空間でゆったりとした時間を過ごすことができます。

この建物は、もともと米屋さんとして使われていた築約100年の町家です。面積は約20坪、3戸連棟のつくりで、1階が喫茶と物販、2階が事務スペースとなっています。店長の浅原さんは、町家が持っている大事なものをきちんと残し、活用できるように改修したいと考えました。そこで、一緒に店をやっていくご主人やお姉さんとこの町家をどのようにしていきたいか、それぞれのやりたいこと、大事に思っていることなどを重ね合わせながら検討された結果、地域の歴史に触れながら自然の素材の豊かさを五感で感じるお店として再生されるに至りました。

この建物の再生は、本来の間取、構造を生かすこと、自然素材 (材料、塗料) を使用することとされました。

町家の間取は通風や建物の構造上のバランスだけでなく暮らし方と密接な関係があり、間取そのものに意味があること、そして町家は土、木、竹などの自然素材だけでできていることなど、本来町家がもっている姿、意味を大事に継承していきたいと考えられました。また、既存の建具などを活用するとともに、他の町



通り庭

家で不要となった建具を再利用するなど、町家の部材は寸法上転用が可能という特徴が生かされています。建物の改修に当たっては、柱がかなり下がっていたところを上げて水平を戻し、また構造的にも新しく柱を6本ほど入れて補強され、足元のツナギなどもされています。屋根や小屋組みなどは元の形を残されました。土壁は新しく塗られた部分もありますが、もともとの古い土壁もしっかり残されており、建物の歴史を感じることでできる、落ち着いた雰囲気にもとめられています。奥の喫茶コーナーはフローリングになっていますが、仕上げは無垢の木に油を塗っただけのシンプルなものになっています。塗料はベンガラ、荏油、柿渋などの昔から伝わる自然素材を用いられました。

その他、虫籠窓を復元され、格子、おくどさん、五右衛門風呂なども残しておられます。改修工事は、約2ヶ月強かか



残されたおくどさん

ったとのこと。改修の際に難しいのは、こちらの考えていることを理解してくれる、きちんと相談できる大工さんと出会えるかどうかという点ではないかと浅原さんはおっしゃっていました。今回の「綾綺殿」の改修では、田原工務店さんが改修を担われましたが、よい大工さんと出会えて改修を安心して進められて良かったとのこと。今は町家の再生を担える大工さんも増えているように感じるのも、もっと多くの町家が活用されてほしいとおっしゃっていました。

昨年末のオープン以来、店舗としてだけでなく、多くの方に集まっていただく場所としても使っていきたいとのことで、イタリアの食材や地域の歴史、町家での暮らしなどについて講座を開いておられます。参加された方々の感想をお聞きすると、この建物、この場所だからこそ伝わるものがあるようです。

店長の浅原さんはこの地域に生まれ育った方ですが、お話をお伺いして、町家の暮らし、町家の暮らしが根付いた地域というものを、自然に身にまもっておられるように感じました。自分が暮らしてきた生活の歴史が好きになり、残していきたいと思うこと、この感覚が京町家の保全・再生を支える大きな力ではないかと感じました。そのような気持ちを多くの方に持っていただけるように、センターとしてもお手伝いをしていければと思います。



改修前



改修後

京町家関連団体事業紹介

京町家の保全・再生・活用や文化の魅力を発信する、団体活動を紹介します！

職人さんが語る町家の学校

「町家をトーク」

町家をトークは、「京都・こだわりの会」が京都特有の京町家の住まいについて深く知っていただくこと、平成12年より前身の「京都にこだわる会」が形を変え、毎年継続して開催してきました。今年度はセンターと共催し、平成17年5月から平成18年3月までの全11回開催し、延べ約400人が参加しました。各回、京町家に関係する各種職能の専門家(大工さんや庭師さんなど)を招き、仕事の技や素材の性質、歴史など様々な視点で職人の技術や知恵などをお話いただいています。講座では、講師が仕事道具や素材を持参し、参加者の目の前で実演を交えた解説を行い、参加者も見て、触って、住まいの工夫や知恵を実感できる内容になっています。京都・こだわりの会の代表の池田さんは、「大阪・神戸会場でもすまいに關する講座を行っている。京都の方にもご参加いただきたい」とおっしゃっています。本講座は、平成18年度も開催します。会員のほか、一般市民の方々の参加者も受け付けています。ぜひ、皆さんも「町家をトーク」、「すまいをトーク」で住まいの文化や知恵に触れてみてはいかがでしょうか。



※「町家をトーク」は、平成18年度より「町家をトーク運営委員会」が運営を行います。

■問合せ/申し込み

京都・こだわりの会
TEL 075-211-6012 FAX 075-252-1427
〒602-0898 京都市上京区相国寺北門前下ノ町699

実践・京町家改修意見交換会

作り手町家塾

『町家再生の創意と工夫』を学びあう会

今日、京町家は市民活動団体など各主体の様々な取組により注目されブームとなっています。町家の保全・再生が進む一方で、不適切な改修や店舗の利用などによる新たな問題も発生しています。そこで、京町家の保全・再生・活用の取組を進めている京町家再生研究会を母体とした実践部門の京町家作事組が、「京町家再生の創意と工夫」をテキストに、京町家のとらえ方や改修作法について、作り手の皆さんとともに考える町家塾を開催しました。町家塾には、町家に関心がある大工さんや町家を学びたい設計者など、総勢40余名の専門家が集まり、



平成17年11月より平成18年2月まで全4回の連続講座が行われました。第1回・3回は、京町家作事組の梶山氏によるテキストの趣旨解説と質疑応答が行われ、第2回・4回は、

小グループに分かれて耐震改修や現代的設備の取り入れ方など様々なテーマで活発な意見交換が行われました。京町家作事組では、4月から「京町家棟梁塾」を開講予定です。京町家の保全・再生に求められる技術の継承を図るためにこれからも取組を進められます。センターでも今後ともこうした取組にご協力していきたいと思っています。

京町家再生賃貸住宅

路地の良さを生かしながら、長屋の耐震・耐火性を向上させる工事が完成！

～建築士、工務店、不動産管理業者の協力で大家さんも安心できる賃貸経営が可能に～



上京区内において、京都市の「京町家再生賃貸住宅制度」を活用した長屋の賃貸住宅の改修工事が平成17年12月に完成いたしました。通り抜け路地に面した木造2階建ての5戸、各戸の延床面積は約50㎡、内装や水廻りが一新され見た目も美しくなった上に、防火性能や耐震性能の向上やバリアフリー化により安全性も向上しました。防火性能・耐震性能向上及びバリアフリー化が補助対象で、耐震性向上に当たっては、耐震

構造の専門家により構造計算(限界耐力計算)が行われ、計算に基づき仕口ダンパー(注)や耐力壁等が設置されるとともに、設計から工事監理まで建築士が担当されました。あわせて、定期借家の導入等をはじめ維持管理面で不動産管理会社の協力も得ることになりました。

改修工事や維持管理に専門家のバックアップを得ることで、入居者も安心して住むことができ、大家さんにとっても安心できる賃貸経営が可能ではないでしょうか。

なお、京都市では京町家再生賃貸住宅制度の活用希望事業者を引き続き、募集しております。ご関心のある方は京都市住宅政策課(TEL 222-3666)までご連絡ください。

(注)柱と梁の接合部に取り付け、地震による揺れのエネルギーを吸収する金具のこと。



応援します！ 「市民が主役のまちづくり」

平成17年度 「景観・まちづくり大学」を 開催しました！

■京のまちづくり史セミナー

▶第1期(第1回～第3回)

「町衆の営みとまちづくり」をテーマに、都市に住む合理的な姿として京町家が時代とともに変遷してきた経緯や、近代期の岡崎地域での町衆の行動、東山周辺の社寺の宅地開発が現在の都市構造に与えた影響などについてお話をいただきました。



■第1回「まちと暮らしと町家の変化」

- ・平成17年7月23日(土)14:00～16:00
- ・講師：高橋 康夫氏(京都大学大学院教授)

■第2回「建都1100年の町衆の行動の本質に迫る」

- ・平成17年8月27日(土)14:00～16:00
- ・講師：中川 理氏(京都工芸繊維大学教授)

■第3回「近世の都市・宅地開発からまちづくりを考える」

- ・平成17年9月24日(土)14:00～16:00
- ・講師：日向 進氏(京都工芸繊維大学教授)

▶第2期(第4回～第6回)

「都市景観の形成とまちづくり」をテーマに、京都の郊外開発が、どのような時代背景により行われたか、また京都のこれまでの景観政策の変遷とともに、町衆の景観形成に向けた取組の変遷、課題や、これからの取組などについてお話をいただきました。



■第4回「郊外の開発はなぜ行われたか」

- ・平成17年10月22日(土)14:00～16:00
- ・講師：石田 潤一郎氏(京都工芸繊維大学大学院教授)

■第5回「京都の景観の保存再生に向けて～何を誰が行うのか」

- ・平成17年11月26日(土)14:00～16:00
- ・講師：大西 國太郎氏(京都造形芸術大学客員教授)

■第6回「京都の景観行政から景観法へ」

- ・平成17年12月10日(土)14:00～16:00
- ・講師：吉田 秀雄氏(畿央大学教授)

▶第3期(第7回～第9回)

「住民の自治とまちのルールづくり」をテーマに、江戸時代の都市生活を支えるコミュニティの関係構築を明文化した「町式目」の成立した経緯や、この「町式目」を現代の地域まちづくりに生かそうと活動している祇園町南側地区や姉小路界隈の取組について、現地見学を交えてお話をいただきました。



■第7回「住民の自治とまちのルールづくり」

- ・平成18年1月28日(土)14:00～16:00
- ・講師：谷 直樹氏(大阪市立大学大学院教授)

■第8回「まちづくり現地見学会～祇園町南側地区の取組」

- ・平成18年2月25日(土)14:00～16:00
- ・講師：上林 研二氏((株)地域生活空間研究所)

■第9回「まちづくり現地見学会～現代の「町式目」が生み出す街なみ景観」

- ・平成18年3月4日(土)14:00～16:00
- ・講師：石本 幸良氏((株)地域計画建築研究所)

「景観・まちづくり大学」は、京都のまちづくりに関心のある人々が集い、語り、交流する場です。共に学び、共に育つ…。京都市景観・まちづくりセンターは、京都の明日のまちづくりを担う皆さんの活動を応援しています。

今年度も、様々な世代や立場の方が、まちづくりに持てる力を十分に発揮できるよう、多様な手法を用いて講座を開催しました。

平成18年度も受講者のみなさんからいただいたご要望やご意見を生かしたセミナーを開催しますので、ぜひご参加をお願いします。

■まちづくり情報発信セミナー

▶第1期(第1回～第3回)

今年度は、「まちのプロデューサーたち」と題して、まちづくりの第一線で活躍中の方々に新たな賑わいをみせる新風館など三条通界隈での取組や今後の地域づくりのあり方などについてお話をいただきました。



■第1回「アートや文化はまちを変える！～次世代のまちづくりに向けたチャレンジ」

- ・平成17年7月21日(木)18:00～20:00
- ・講師：小原 啓渡氏(アートコンプレックス1928プロデューサー)

■第2回「人材ネットワーク型のムーブメントづくりが地域・まちづくりを変える！」

- ・平成17年8月17日(水)18:00～20:00
- ・講師：渡辺 敏幸氏(初代新風館館長・NTT都市開発課長)

■第3回「京都の観光から広げる人のつながり、産業の活性化」

- ・平成17年9月21日(水)18:00～20:00
- ・講師：滑田 教夫氏(京都旅企画代表取締役)

▶第2期(第4回～第6回)

第2期は、「京町家」を生かしたまちの拠点づくりの取組や、京都の台所である「錦市場」という地域ブランドを生かした戦略的なまちづくり活動、学生が地域と連携・協働する新たなまちづくりの事例などについてお話をいただきました。



■第4回「京都の生活文化の活用によるまちの拠点づくり」

- ・平成17年10月19日(水)18:00～20:00
- ・講師：小泉 光太郎氏(麻の館 麻小路 館長)

■第5回「京都ブランドとまちづくりを考える～錦市場の担い手としての思いと行動から」

- ・平成17年11月16日(水)18:00～20:00
- ・講師：藤井 輝男氏(津之喜酒舗代表取締役)

■第6回「学生の連携・協働による市民のまつりづくり」

- ・平成17年12月21日(水)18:00～20:00
- ・講師：園部 佑樹氏(京都学生祭典広報部長)

▶第3期(第7回～第9回)

第3期は、地域のまちづくりに「ギネスブック」という新しい概念を取り入れ成功している事例や、全国でも珍しいNPO法人が運営する放送局のラジオというメディアを使った地域まちづくり活動、観光シーズンの交通問題など地域の様々な課題を抱える東山区役所の取組についてお話をいただきました。



■第7回「オンリーワンのまちづくりをどう発信するか」

- ・平成18年1月18日(水)18:00～20:00
- ・講師：清水 流美氏(合資会社ビット代表)

■第8回「まちのメディアがまちづくりを育てる！変える！」

- ・平成18年2月15日(水)18:00～20:00
- ・講師：町田 寿二氏(NPO京都コミュニティ放送放送局長)

■第9回「東山区役所からの発信！3K協力金をはじめとした様々な取組について」

- ・平成18年3月8日(水)18:00～20:00
- ・講師：二木 久雄氏(東山区役所まちづくり推進課長)

■京町家再生セミナー

今年度は、「生きている町家―生かしてください京町家―」をテーマに、京町家の保全・再生に取り組んでおられる6団体(注)の企画・運営のもと、より現場に近い視点に立った、また各団体の特徴を生かした情報を提供し、京町家の保全・再生に向けたみなさんの一歩をサポートするセミナーを開催しました。

(注) 6団体…関西木造住文化研究会、NPO法人古材文化の会、京都府建築工業協同組合、(社)京都府建築士会、NPO法人京町家再生研究会、町家倶楽部ネットワーク

■地域まちづくりセミナー

西京区の洛西地区や伏見区の納屋町地区など地域の皆さんを対象に、地区計画等のまちづくりに関する制度説明や各地域固有の課題解決に向けての必要な情報提供など、各地域の具体的なまちづくり活動を支援するセミナーを随時開催しました。

■まちづくり専門家セミナー

昨年度から取り組んでいるテーマ研究会「マンションと地域コミュニティ」の議論をより深めるため、同様のテーマに取り組む研究者などに呼びかけ、各グループでの調査研究の内容に関する意見交換や他都市の事例調査の報告会などを随時開催しました。

■こどもまちづくりセミナー

「まちなか子ども探検隊」と題し、京都のまちなかを写真撮影しながら、色々な建物や人を訪問し、京都の魅力を発見する取組を行いました。

■学生まちづくりセミナー

京都のまちづくりに関心がある学生に、下京区の有隣学区のまちづくりについて、地域の方々との交流やワークショップ、地域のまち歩きを通じて、様々な提案を行っていただきました。

平成17年度賛助会員 敬称略(五十音順)

H18年2月末現在

【個人】

青柳 敏雄	大岸 薫	桂 豊	坂本 正寿	武居 桂	中谷 弘	福島 正俊	山本 一宏
芦田 英機	大島 仁	加藤 昭	佐竹 和男	田中 照人	中司さゆり	藤本 春治	山本 一馬
石田 達	大谷 孝彦	門川信一郎	佐藤 恒雄	田中 行夫	中村 忠夫	古川 幸隆	山本 耕治
石原 一彦	大槻 泰	門川 大作	佐藤 洋	田辺 真人	西澤 亨	平家 直美	山本 茂
石村 陸貴	大森 壽人	亀井 孝郎	塩谷 孝雄	谷口 一朗	西島 篤行	細川 義明	山本 七重
石本 智子	岡崎 篤行	川上 輝夫	島崎 耕一	谷口 進	西田 祐司	本田 徹	湯浅 博央
石本 幸良	岡野 哲也	川口 東嶺	白須 正	谷脇 郁夫	野村 正樹	益田 兼房	吉田 香
糸井 恒夫	岡本 晋	川口 浩	城本 邦彦	寺田 恵子	畑中 政治	松田 彰	吉田真由美
稲石 勝之	岡山 尚義	上林 研二	新喜 富雄	寺田 敏紀	早崎 真魚	松村 聡	善積 秀次
犬伏 真	小川 信行	北川 洋一	寿崎かすみ	寺田 史子	林 建志	松村 光洋	淀野 実
今井 邦光	奥 美里	木村 茂和	園 孝裕	寺本 健三	林 幹夫	馬屋原 宏	鷺頭 雅浩
岩城千恵子	奥山 脩二	木村 忠紀	高木 勝英	戸所 泰子	平竹 洋子	南 寛	
上野 明彦	押谷 昌成	木村 裕	高木 伸人	内藤 郁子	深井 敦夫	武藤 弘一	他全136名の皆様
上原 智子	小山 選一	桐澤 孝男	高橋 修	中井 徹	吹上 裕久	村田 清	
梅津 章子	海堀 安喜	金辻 俊一	高橋 昌男	中川 慶子	福島 邦夫	毛利 信二	
江草 哲史	影近 春治	齊藤 修一	高谷 基彦	中島 吾郎	福島 健一	森澤富久造	
江田 頼宣	笠岡 英次	酒井 英一	瀧本 章	中島 弘益	福島 貞道	山口ひかり	

【団体】

アジア航測株式会社京都支店

大阪ガス株式会社近畿圏室

大阪ガス株式会社京滋リビング営業部コミュニティ室

オムロン株式会社

医療法人 勝目医院

京都駅ビル開発株式会社

社団法人京都府建築士事務所協会

有限責任中間法人京都不動産投資顧問業協会

NPO法人京滋マンション管理対策協議会

株式会社ジェイアール西日本伊勢丹

株式会社ゼロ・コーポレーション

株式会社地域計画建築研究所

都市居住推進研究会

株式会社フラットエージェンシー

NPO法人マンションセンター京都

ローム株式会社

渡文株式会社

御池通シンボルロードのまちづくり

御池通界わい今昔マップ

平成17年12月20日発行 京都市

御池通界わい今昔マップとは

京都中心部を東西に走る御池通は、祇園祭や時代祭の巡行ルートとして市民や観光客に親しまれている京都市のシンボルロードです。

この御池通の歴史や魅力を多くの方々に知っていただくため、地元の方々のご協力を得て、御池通界わい今昔マップを発行しました。

「他のマップとは一味違ったマップを作りたい！」

「地元の者でないと語り継げない歴史を伝えたい！」

など地元の方々の熱い思いが込められたマップです。

ぜひ一度、手にとってご覧ください。



マップの内容

マップは、御池通の鴨川西側から千本通までの約3キロを3つのエリアに分け、それぞれの昔と今の姿や地域の特徴を伝える内容となっています。

歴史を伝える町名の由来、御池通の歴史、史跡、戦時中の強制疎開、明治から昭和の周辺写真や地図、現在の町の様子など、貴重な情報を満載しています。

3枚の地図をつなげて1つの地図として見ることもできます。

烏丸通～鴨川界わい編

日本最初の小学校柳池校、地元住民によるみそそぎ川のホタルの保護活動、ヒヤリング調査により作成した戦前の寺町通付近の御池通復元図、昭和初期の懐かしい風景写真や史跡などを紹介しています。

堀川通～烏丸通界わい編

地域の方が4年の歳月をかけて作られた強制疎開前の御池通復元図、豆腐、生麩、酒などの京都の食文化を支えてきた井戸のマップ、この付近に多くあった貴族の邸宅の史跡などを紹介しています。

千本通～堀川通界わい編

千本通は平安時代のメインストリート、朱雀大路でした。御池通の由来となった神泉苑や国宝の二条城、重要文化財の二条陣屋、祇園祭に縁の深い地域の祭などを紹介しています。

御池通界わい今昔マップができるまで

～御池通シンボルロード活性化の取組～

京都市では、鴨川から堀川通間の御池通を京都のシンボルロードとしてふさわしい道路とするため、平成9年から15年に街路整備事業を実施しました。さらに、にぎわいの創出と景観形成に向けた取組を検討するため、平成14年10月に地元住民、沿道事業者、商工会議所、学識経験者及び行政で構成する御池沿道関係者協議会を設置して議論を重ねました。平成16年8月にシンボルロード活性化のための具体的な目標と実現化方策をまとめ、現在はこれに基づき、それぞれの役割分担によって具体的な取組を進めています。

御池通界わい今昔マップ作成はこの取組のひとつです。

～御池通沿道のマップづくりワークショップ～

御池通界わいの大切にしたいもの、楽しい思い出、地域の誇り、身近な歴史など御池通の魅力を伝えるマップづくりを目指し、平成16年12月から平成17年6月まで、全6回のワークショップ(他、作業部会6回)を



開催し、まち歩き、史料集め、ヒヤリング調査などを行い、延べ247名の方々のご参加、ご協力を得てマップ案



を作成しました。

「このマップを次代を担う子供達に使ってもらいたい」というご意見に応え、現在では京都御池中学校の授業でもマップが活用されています。

今後も、家庭や地域などで多くの方々に、このマップが活用されていくことを期待しています。

お問い合わせ

御池通界わい今昔マップは京都市役所都市づくり推進課で配布しています。(無料)

また、下記のホームページから閲覧・印刷できます。
<http://www.city.kyoto.jp/tokei/todu/oike/oikemap.htm>

郵送ご希望の方は、郵便番号・住所・氏名・マップ希望とご記入の上、返信用に140円切手を同封して、下記までお申し込みください。

〒604-8571

京都市役所 都市づくり推進課「御池マップ」係

私と京都



スーク創生事務所
代表 大島 祥子

「新しい発見が 尽きない京都」

今回「私と京都」というお題で原稿依頼をいただいた時、「これまで執筆されてきた方のように、果たして私には語れる内容はあるのか？」と不安になりました。そこで、この機会に「私にとって京都とは何だ？」について考えることとしました。

そして出てきた答えが「京都だから私は生きていけるのだろう」ということです。つまり、様々な人に育てられ、つないでいただいているからこそ、現在の私の生活や生業、社会活動があり、現在歩んでいる「道」があると感じています。

京都ではよく「知人や友人と手を順番につないでいくと、みんなつながる」と言われる（これが本当かどうかは誰も実証していないと思いますが）、自律的ながらも濃密な人間関係があります。しかし1200年も都市であり続けているからでしょうか、

多様なコミュニティや価値観、行動があるまちでもあり、チャンネルが変わると人間関係も大きく変わっていると実感しています。つまり、京都の上には様々なコミュニティが幾層にもレイヤーを形成していると感じています。レイヤーが変われば、近いところにながらも、活動内容はおろか、人の繋がりや価値観をよく知らない、ということもあると思います。

私は京都で生まれ、育ちました。学生時代に机上でまちづくりや都市計画を学び、卒業後、大阪で3年間働きました。その後ご縁があり、センターのプロジェクトディレクターとして5年数ヶ月お世話になりました。この間、京都のまちづくりや様々なコミュニティについて多くのことを学びました。そして学生の頃に「知ったつもりになった」知識や情報が多くの場面で覆ったり、上書きされたりして、常に新しい世界が（ちょっとずつですが）見えてくるようになりました。そしてこの新しい世界を見せてくださったのは、多くの先輩方と多くの活動の現場です。

センター卒業後は、ちょっとだけ違うレイヤーの世界にも参画し、ここでも多くのことを学習・実感し、新しい人間関係ができてきました。

そしてレイヤーが変われば人間関係だけではなく、違う価値観や力学があることも知りました。もちろん、共通項もたくさんありますが、重なっているようで、重なっていないところも多いと実感しています。

私は生業とは半歩離れたところで、三条通を中心とした様々な世代

と所属の人が集うネットワーク型組織の「楽洛まちぶら会」、ものづくりの職人さんや作家、企業の方達と一緒に取り組むデザイン運動母体「DIK」、住まい・まちづくりに関する活動組織の「都市居住推進研究会」、新しい市民メディアづくりの「まちメディアプロジェクト」など、様々な事務局をつとめています。それぞれ異なったコミュニティによる活動ですが、いずれも「京都」に軸足を置きながら、ちょっとずつ重なっているとところがあり、その重なりを大きくすることで、より多重的で広がりもてる可能性も実感しつつあります。コラボレーションの妙味を実感しています。

最近では情報産業系の動きがメディアを賑わしていますが、「最低限のルールを守れば人との関係は重要ではない」という「グローバル化故の所作」は、この京都では幅をきかせていませんし、おそらく通じないまちでしょう。人間関係や行動様式も「日本人としての原点」が継承されているのかな、と感じています。100万都市において、これは極めて異例なことでしょう。

京都で育って30数年、まだまだ限られたコミュニティの中で生息していると感じています。歴史や文化、伝統、芸能をはじめ、まだまだ私には未知の京都があります。まだまだ奥深い京都です。今後も京都で暮らしていくこと、生業をしていくこと、そして様々な活動を通して、新しい京都を丁寧に発見していきたいと思っています。

センター解説アワー

コミュニティ助成事業



「宝くじの金太郎マーク」。地域の防災器具庫や公園の遊具など、身近なところでご覧になった方は多いのではないのでしょうか。これは(財)自治総合センターが宝くじの普及広報を目的として文化振興事業やコミュニティ助成事業など各種の事業を実施、支援するなかで、「豊かさ築くチカラ持ち」を表すイメージとして使用されているものです。

今年度京都市ではコミュニティ助成が2ヶ所で行われました。中京区の本能学区では、小学校跡地の新施設オープ

ンに合わせて、地域住民の交流の促進を図るためのステージ等設備類の整備を行いました。また、上京区の春日学区では、災害時の緊急時に必要な器具の整備や防犯、防災の意識を高める啓発活動に係る備品の整備を行いました。

本能学区では、新施設竣工を祝う「竣工・本能まつり」、春日学区では「春日学区総合防災訓練」と、それぞれ事業終了時に全学区民対象の取組でお披露目されました。皆さんもぜひこのような助成事業を地域コミュニティ活動にご活用ください。

*コミュニティ助成事業に関するお問い合わせは、
京都市理財局主計課 (075-222-3290) まで

センター語録

センターに来て2年、ようやく「センター語録」のバトンが回ってきました。センターでの仕事の立場上考える機会の多い、まちづくりの実績と成果ということについて少し私見を綴らせていただきます。

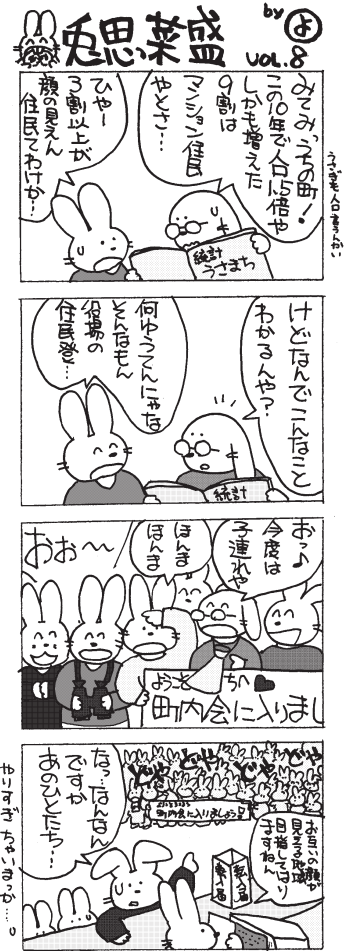
まちづくりの「実績」というのは、例えばセンターとして、地域への助成を何件行ったとか、専門家派遣で地区計画が何地区できたとか、また地域の方でも、まちづくりの推進組織を設立したとか、会議を何回やったとか、そういう言い方で容易に説明することができます。しかし、より重要なのは「成果」の方。某先生がおっしゃるように、まちづくりが目指すのは「みんなが機嫌よう暮らせるまちになる」ことだとしたら、これらの「実績」がこの目標実現に向けてどう作用しているか、「成果」を語るためには、私たちはそういう根本のところまで踏み込んで考えなければならないと思います。

まちづくりはなかなか先の見えない、

時間と労力のかかる取組。隣の4コマ漫画「兎思菜盛」のうさぎさんたちも地域の新住民との対話にもう2年間も四苦八苦続けています。地域の皆さんが苛立つことやしんどいこともたくさんあるでしょうが、それを楽しく気長な取組として継続されていくようお手伝いすることが、おそらく私たちに課された最大の使命なのかなと思います。

過日、京都市の地域コミュニティひろばづくり事業や堀川再生の取組に関われ、「交流の場づくり」という視点から、京都の地域まちづくり活動の促進に取り組んでこられた京都大学の吉田鐵也先生がお亡くなりになりました。いつも笑顔で地域の人たちの「やる気」を煽っておられた姿が今なお鮮明に残ります。心からご冥福をお祈りすると共に、先生の御意思を継げるよう、センター一同がんばっていきたいと思います。合掌。

(景観・まちづくりセンター事務局 K・Y)



センターからのお知らせ

京都市景観・まちづくりセンターホームページ

<http://machi.hitomachi-kyoto.jp>

センターの取組内容をはじめ、まちづくりに関する様々な情報を発信するホームページ。

皆さんの地域のイベント情報、まちづくり情報も掲載します。メールマガジンの登録も受付中です。



センター活動拠点のご案内

京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1 (河原町五条下る東側)

「ひと・まち交流館 京都」地下1階

TEL 075-354-8701

FAX 075-354-8704

e-mail : machi.info@hitomachi-kyoto.jp

●開館日 (相談の受付等)

9:00～21:30 (月曜日～土曜日)

9:00～17:00 (日曜日・祝日)

●休館日

毎月第3火曜日 (国民の祝日に当たるときは翌日)

年末年始 (12月29日～1月4日)

なお、センターへのお越しの際は公共交通機関をご利用ください。



賛助会員の募集 (平成18年度分)

平成18年度の賛助会員を募集しています。京都のまちづくりに貢献したい！センターの活動を応援したい！そんなあなたの熱意をお待ちしています。

【特典】

- ・ニュースレター (年4回・季刊) の送付
 - ・冊子等センター発行物の割引
 - ・ニュースレターでの活動紹介
 - ・シンポジウム、セミナー等への優待
- 賛助会員の方は、景観・まちづくり大学のすべてのセミナーを無料で受講できます。(賛助団体の方はひとつのセミナーで3人まで受講可)

【年会会費】

個人1口：5千円 団体1口：5万円

まちづくりフレンズの募集

地域のまちづくりに関する各種イベントや啓発・学習活動にボランティア・スタッフとして参加していただける方を募集・登録しています。